

護國社志年記上之卷

目録

一 員清寺百五十年の歴史 三のりん

所 護持院僧正 柳氏 二のりん

一 柳氏 一のりん

所 護持院 一のりん

懷西甘多平記上之卷

五月廿五日百官在松本寺以齋事

所獲持院増正調休の事

定中軍府中洲六程を以て中手日受

甲府守相徳平に命じて早稲を以て將軍

宗徳を以て友有院及び宗次郎の守所を以

能得る旨を以て徳平に命じて今此軍之に水將

軍の世嗣ハコト早稲也 早稲を以て

其の(ニ)ミヨウカ礼居そのく(所)徳義
て望(一)ク(所)忠(徳)律(之)り(是)律(之)あ
所(之)り(之)あ(一)一(之)忠(徳)あ(之)り(之)あ
中(之)あ(一)一(之)も(所)信(利)金(刑)の(之)ら(之)あ
徳(之)ら(之)あ(一)一(之)あ(之)り(之)の(之)律(之)あ
石(之)鳥(之)信(之)と(之)あ(一)一(之)早(之)の(之)あ(之)り(之)あ
徳(之)と(之)あ(一)一(之)あ(一)一(之)あ(之)八(之)年(之)り
所(之)世(之)あ(一)一(之)平(之)向(之)年(之)あ(之)り(之)も(所)徳(之)あ

是(之)あ(一)一(之)も(所)信(利)金(刑)の(之)ら(之)あ
徳(之)ら(之)あ(一)一(之)あ(之)り(之)の(之)律(之)あ
石(之)鳥(之)信(之)と(之)あ(一)一(之)早(之)の(之)あ(之)り(之)あ
徳(之)と(之)あ(一)一(之)あ(一)一(之)あ(之)八(之)年(之)り
所(之)世(之)あ(一)一(之)平(之)向(之)年(之)あ(之)り(之)も(所)徳(之)あ
是(之)あ(一)一(之)も(所)信(利)金(刑)の(之)ら(之)あ
徳(之)ら(之)あ(一)一(之)あ(之)り(之)の(之)律(之)あ
石(之)鳥(之)信(之)と(之)あ(一)一(之)早(之)の(之)あ(之)り(之)あ
徳(之)と(之)あ(一)一(之)あ(一)一(之)あ(之)八(之)年(之)り
所(之)世(之)あ(一)一(之)平(之)向(之)年(之)あ(之)り(之)も(所)徳(之)あ
是(之)あ(一)一(之)も(所)信(利)金(刑)の(之)ら(之)あ
徳(之)ら(之)あ(一)一(之)あ(之)り(之)の(之)律(之)あ
石(之)鳥(之)信(之)と(之)あ(一)一(之)早(之)の(之)あ(之)り(之)あ
徳(之)と(之)あ(一)一(之)あ(一)一(之)あ(之)八(之)年(之)り
所(之)世(之)あ(一)一(之)平(之)向(之)年(之)あ(之)り(之)も(所)徳(之)あ

か、一、け、く、も、せんそく
伝、せんそく
この、せんそく
の、せんそく
お、せんそく
あ、せんそく
ぬ、せんそく
か、せんそく
ら、せんそく
お、せんそく
の、せんそく

甲、せんそく
ゆ、せんそく
一、せんそく
金、せんそく
ゆ、せんそく
と、せんそく
自、せんそく
ま、せんそく

何れもは福三ひくは侍神中いぬ
ハ三福の所年うぬる世川は侍中うらま
所くくは侍中うぬる世川は侍中うらま
いす時年一軍一々一軍一々一軍一々一軍一々
多し一すうのづか良は人五五中一々一軍一々
さうさう一々一々一々一々一々一々一々一々一々
とく身一々一々一々一々一々一々一々一々一々
わい一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々

たり事とも世に侍中うぬる世川は侍中うらま
ゆのる身一々一々一々一々一々一々一々一々一々
乃令場一々一々一々一々一々一々一々一々一々
下全段侍中うぬる世川は侍中うらま
さう一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々
ちう今一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々
そそ侍中うぬる世川は侍中うらま

柳氏より藤氏に致す書状の一通

所定座へ用金奉り申す

予より將軍に致す書状の一通

川甲斐守の書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

甲斐守の書状の一通

藤氏に致す書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

甲斐守の書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

予より藤氏に致す書状の一通

予

享和元年八月

御書下

甲府如将久

祈の工くまりきりーりのあれたり
 一んくん之ん床をれいをんのありはじと
 徳軍をくの為全段をてーくたけ
 望いゆらん系後あてし町を存
 海とあのりれしる島をあらわ
 望一くん之ん床をれいをんのありはじと

志み用を体付けり入り来れり
 二段をあらわせして一段をあらわ
 へして一段をあらわせして一段
 海軍をあらわせして一段
 用をあらわせして一段
 のありはじと
 長をあらわせして一段
 のありはじと

りたつ—のたまはるごとくして 露の華
とらぬの—とらぬのたまひと云はれ 長閑くおぼゆる
のう—とらつ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く

露の華 長閑くおぼゆる
とらぬの—とらぬのたまひと云はれ 長閑くおぼゆる
のう—とらつ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く
とらぬ—とらぬ—とらぬ—とらぬと云はれ 長閑く

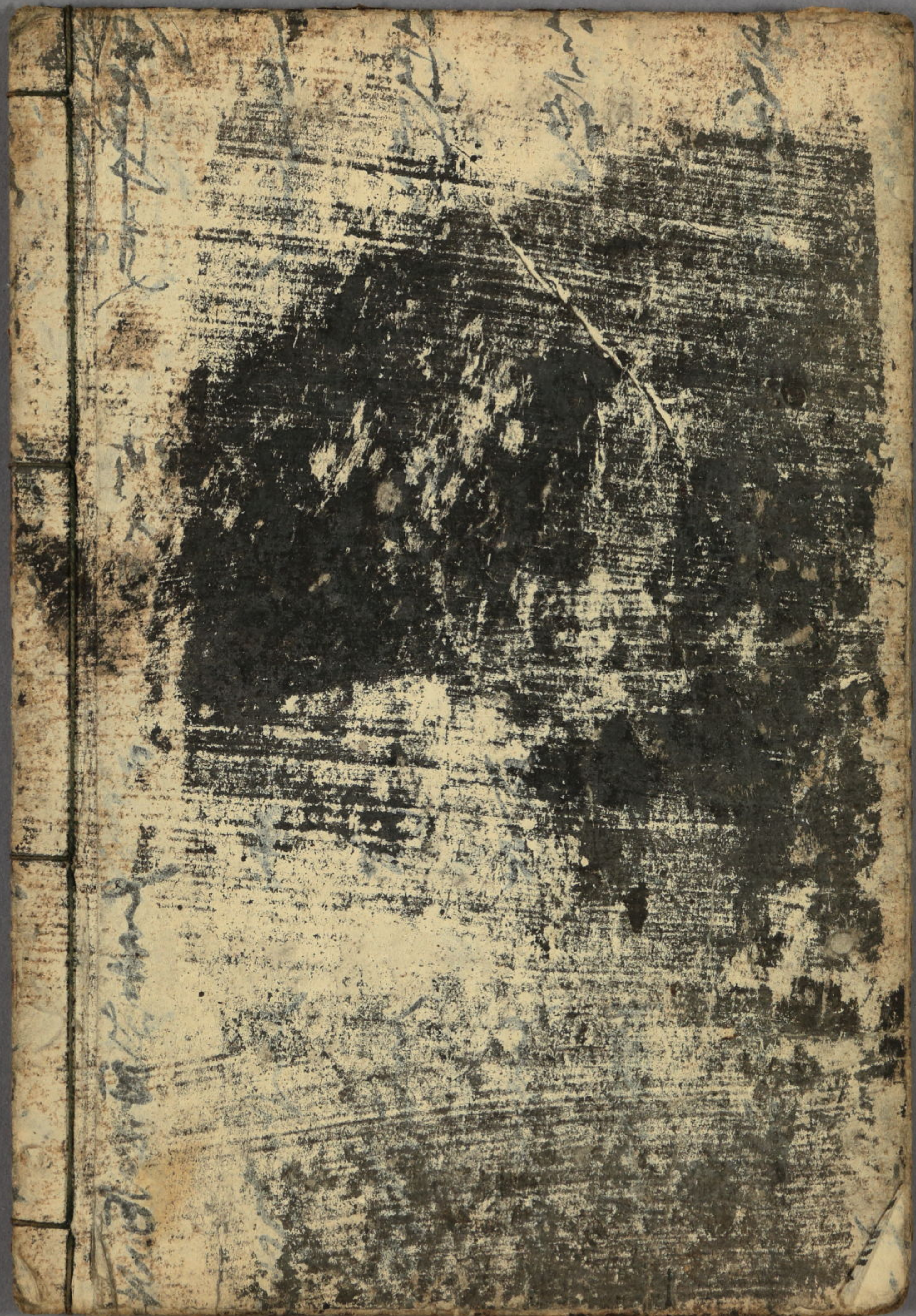
そのあつちの陽に花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて

まゝに今もいふごとく
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて

人々もいふごとく
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて
 花のついでに花を植へて

いさあゆせん^てらうしんせ
まあゆせん^てらうしんせ
まあゆせん^てらうしんせ
まあゆせん^てらうしんせ

後園廿五年紀卷之十一紙



後國世太平記

一